

接收下での神奈川県の戦後



横浜市中区にあったオクタゴンシアター（昭和20年10月16日）昭和館提供

接收前は横浜松竹映画劇場でした（現存せず）。接收後はアメリカ第8軍司令部が置られました。

1階中央に見える第8軍の8角形の記章（オクタゴン）が改名された名前の由来です。

占領統治を進める進駐軍は、横浜や横須賀を中心に空襲の被害を免れていた建物や港湾設備などを次々と接收していきました。

県は、食糧確保や戦災者の援護、簡易住宅の建設など県民の生活に直結する課題に取り組んでいるところでした。加えて、進駐軍のために接收施設で働く労働者の手配・管理や経費の肩代わりなどを任されることとなり、県政にとって大きな負担となりました。

昭和26（1951）年にサンフランシスコ平和条約が調印されたことを契機に、内山知事は県内自治体と協力して、全面的な接收解除を政府に要請する運動を推進しました。

その結果、大さん橋など一部の接收地は返還されましたが、その範囲はごく僅かで、接收地の返還は現代まで続く課題となりました。



横須賀海軍基地で解体を待つ日本海軍機群（昭和20年9月6日）昭和館提供



横浜市中区本牧町に建てられた米軍住宅（昭和23年11月15日）昭和館提供

昭和
100年
1926—2026

かながわ「昭和100年」

つながる心、ともに未来へ